

牛久：学校周辺に見る自然

第1号 牛久自然観察の森、龍ヶ崎市森林公園

2020年4月1日発行

< 春の訪れ ~①さくら >

みなさん、こんにちは。今年度も、よろしくお願ひします。新型コロナウイルスの感染が拡大し、学校も突然の休校、そのまま春休み。ストレスもたまりますね。私も外出をひかえ、気がついたら体重もだいぶ増えていました。腰が痛いのもそのせいかと、久しぶりにカメラを手に自然観察です。今回は、桜。人が少ないのを確かめて、マスクをして歩いてきました。解説は、一部、昨年度のコピーです。



花が咲いて、あとから葉が開くソメイヨシノ。校庭にもよく植えられる。

3.22 龍ヶ崎市森林公園。

まずは、ソメイヨシノ。花が先に開きあとから葉が開いてくるのですが、気温などが同じ地域では同じ時期にいつせいに咲き、そしていつせいに散っていきます。それで桜の開花日などは主にソメイヨシノで記録され、その年の季節の進み具合をみる参考にされています。じつは、このソメイヨシノ、種子ではふやせず、ふつうは接ぎ木で繁殖させます。つまり、新しくできたなかまは、同じ遺伝子をもったクローンなのです。今では北海道から九州まで広く植えられ愛されていますが、オオシマザクラとエドヒガンの間にできた雑種のクローンが広められたものと考えられています。

たれ下がった枝に花が咲くシダレザクラはエドヒガンからできた品種で、ソメイヨシノよりも少し早めに咲きます。

たれ下がった枝に花が咲く、シダレザクラ。 3.26 牛久自然観察の森。



花と葉が同時期に開く、ヤマザクラ。 開きはじめての葉は、赤茶色していることが多い。 3.26 牛久自然観察の森。

ヤマザクラは花と同時期に葉も開きますが、同じ地域でも木によって早く咲くものもあれば遅いものもあります。開きはじめての葉が、赤茶色しているものが多いようです。

天気がいいと、ミツバチやヒヨドリなどが盛んに蜜を吸いに来ます。



ヤマザクラの蜜を吸うニホンミツバチ (左上) とトラマルハナバチ (右上)、ヒヨドリ (左下)。花粉をなめるアシフトハナアブ (右下)。 3.26 牛久自然観察の森。



桜（‘陽光’？）の蜜を吸うヒヨドリ。

3. 22龍ヶ崎市森林公園。

龍ヶ崎市森林公園には、歌手で女優で画家でもある龍ヶ崎市コロッケ親善大使の五月みどりさんが植えたという桜があります。‘陽光’でしょうか、品種名が書いてないので分かりませんが、ヒヨドリが蜜を吸っていました（名前をご存知の方がいらっしゃいましたら、教えて下さい）。



スモモ（左）と、その花粉をなめるアシトハナアブ（右）。

さくらのなかまはバラ科サクラ属というグループに入っていますが、ウメやアンズ、モモ、そしてスモモも同じグループに入ります。花も、よく似ていますね。この日は、ヤマザクラにも来ていたアシトハナアブが、花粉をなめていました。

他にも同じサクラ属のなかま、ユスラウメ、バラ科だけれど別の属のヤマブキ、モミジイチゴ、ユキヤナギも咲いていました。さて、ここで問題。バラ科の花の特徴は何でしょう？比べてみましょう。答えが分かったら、たしかめに来て下さい。

【理科支援員：宮内】



バラ科のなかまユスラウメ（左）とモミジイチゴ（中）、ヤマブキ（右上）、ユキヤナギ（右下）。3. 26牛久自然観察の森。